

現代ロシアとアイン・ランド

1. ロシアという「存在」
2. プーチンって誰？
3. ロシアとアイン・ランド

1. ロシアと いう「存在」

1) 地理 歴史 民族性

- 地理：①とにかく広い、②とにかく寒い、③夏（光）と冬（闇）しかない、④平原（常に内と外から動揺を受ける）

- 歴史：

 - 13～15c 「モンゴル・タタールの軛」

 - 16c 「第3のローマ」

 - 19c 「金の時代」と「デカブリスト」

 - 20c 「革命」と「独裁」と「崩壊」

- 民族性：とにかく「極端」

「ロシアは頭ではわからない。普通の物差しでは測れない。ロシアには独特の姿がある。ロシアはただ信じることしかできない。」チュッチェフ

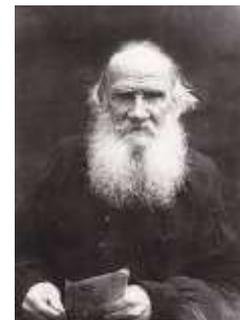
（参考図書）『ロシア的人間』 井筒俊彦

『私のロシア文学』 渡辺京二

『白衛軍』 ミハイル・ブルガーコフ

独断と偏見に基づく「極端なひと」ベスト3

- 1位 ピョートル大帝：「進歩的」な「超専制君主」
- 2位 トルストイ：過剰なモラリスト
- 3位 スターリン：「大粛清」と「大祖国戦争」
戦略と暴力の天才



1. ロシアと
いう「存在」

2) 「極端」
なひとびと



ロシア連邦の国章
「アジア」と「ヨーロッパ」に渡る
統治権を表す。

1. ロシアと いう「存在」

3) 東と西

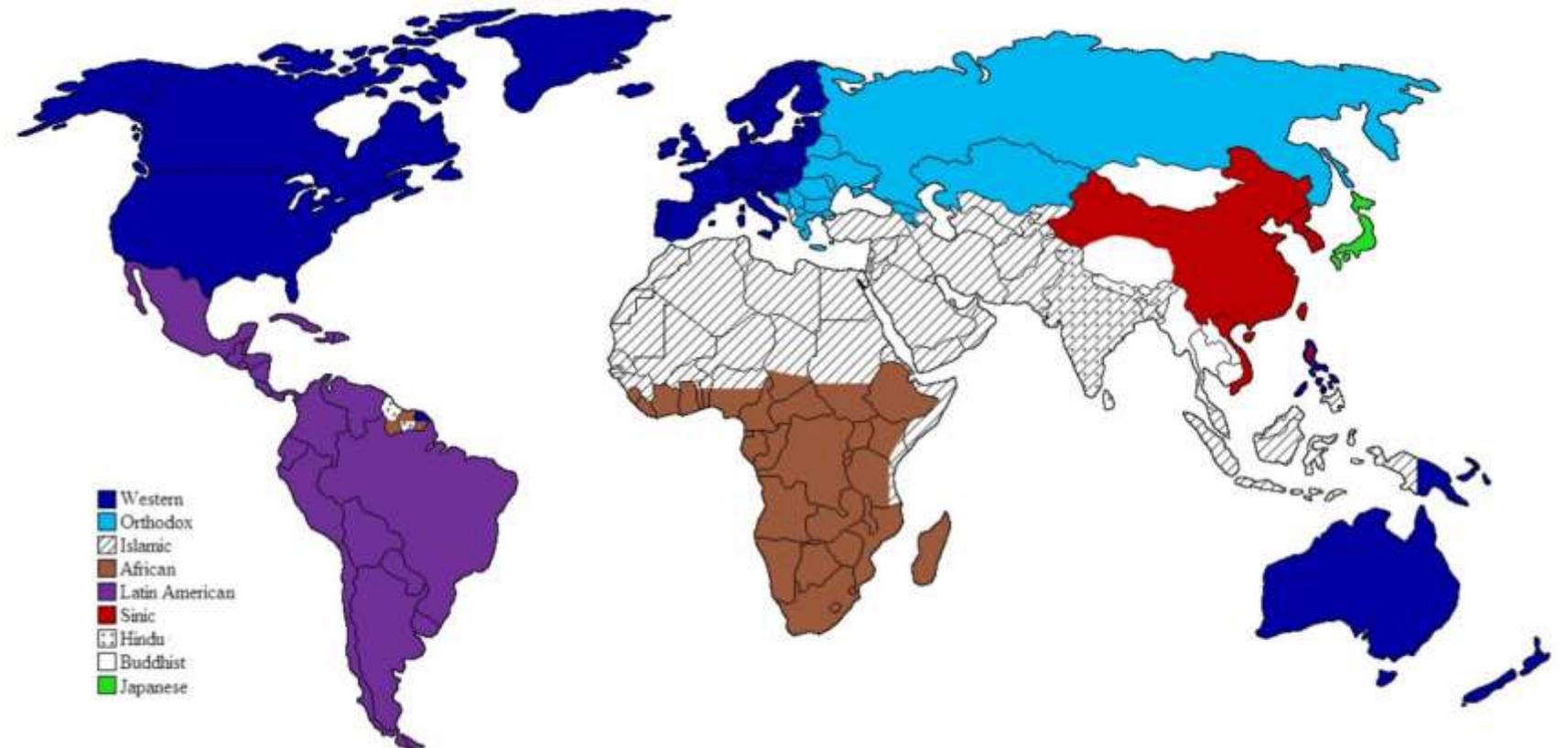
- ロシア政治の典型的なパターン：西欧主義とスラブ主義の間の極端な往復運動。
 - 共産主義はこの対立を「解決」したが、ソ連崩壊後、再び激化。
- スラブ主義：
- ロシアの歴史的発展の独自性や世界史上の役割を主張
 - ロシア正教、ロシア固有の価値観・風習・集団主義を擁護
 - ドストエフスキー、ソルジェニーツィン等々
- 西欧主義：
- ロシアを遅れた社会とみなし、個人主義・市民社会を理想化
 - 多くは貴族地主階級に属する知識人
 - 農奴制、帝政、封建制を否定。無政府主義・革命運動に発展
 - ロシア革命・ソ連は、西欧主義の延長上にある
 - ピョートル大帝、ゲルツェン、ゴルバチョフ、エリツィン等々

1. ロシアと いう「存在」

4) 文明の断層線 (統治が大変)

ハンチントン『文明の衝突と世界秩序の再創造』1996.

- ・ロシアは東方正教会文明の中核国。
- ・ロシアは連邦内・外に多くの「文明の断層線（フォルト・ライン）」を抱えている（西欧、中華、イスラム、日本文明と対峙）
- ・ハンチントンは、国際社会の安定のために「ロシアを正教会文明の中核国家、国境の安全に正当な利害関係を持つ主要勢力として認めるべき」と主張 →2021の現実はどうか？



1. ロシアと いう「存在」

4) ケース① 中央アジア

- ・ 宗教：イスラム教、民族：トルコ系、ペルシア系、モンゴル系
- ・ 古代ギリシア文明、仏教文明、イスラム文明
- ・ ロシア、中国、イラン、アフガニスタンに囲まれた緩衝地帯
- ・ 麻薬、テロリストの通過ルート
- ・ 民族、河川、地下資源の分布が複雑に絡み合う国境
- ・ 国境を定めたのはスターリン
- ・ ソ連崩壊後、最貧国の
キルギス、タジキスタン
で民族対立・イスラム過激派
の侵入による内線・紛争
→ロシア軍が介入。
現在もロシア軍が駐留。



1. ロシアと いう「存在」

4) ケース② バルカン半島

- ・ オスマントルコ帝国→オーストリア・ハンガリー帝国
- ・ ユーゴスラビア王国 (1918~1941) : →ナチス支配
- ・ ユーゴスラビア社会主義連邦共和国(1943~1992) : チトー（独自の社会主義、非同盟中立）による繁栄→民族主義の激化、崩壊
- ・ 対立軸 : ①セルビア（中核国） : 東方正教会文明、②ボスニア、アルバニア : イスラム文明、③クロアチア : 西欧文明
- ・ ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争では、①をロシア、ギリシア、ルーマニア、ブルガリア、②をイラン、サウジ、トルコ等、③をドイツ、オーストリア、米国、ヴァチカン等が支援。

- ・ 90年代のロシアは弱体
- 1999NATOのユーゴ空爆
- コソボ国連管理→2008独立
- ミロシェビッチの戦犯訴追
- 2006獄死（が、2016に無罪）
- =ロシアの「一人負け」状態



1. ロシアと いう「存在」

4) ケース③ カフカス

- ・ロシア、トルコ、イランという大国に挟まれた古くからの紛争多発地帯
- ・アルメニア、グルジア、オセチア：東方正教会文明
- ・アゼルバイジャン、チェチェン、イングーシ、ダゲスタン、チェルケス、カバルダバルカル：イスラム文明

<ロシア国内>

- ・チェチェン紛争(第一次1994~1996、第二次1999~2009)

<アルメニア・アゼルバイジャン間>

- ・ナゴルノ・カラバフ紛争
(第一次1988~1994、第二次2020)

<グルジア国内>

- ・南オセチア紛争(1991~1992)
- ・アブハジア紛争(1992~1993)

<ロシア・グルジア間>

- ・ロシア・グルジア戦争(2008)



1. ロシアと いう「存在」

4) ケース④ ウクライナ

- ・ ウクライナは、西欧文明と東方正教会文明からなる「分裂国」
- ・ 西側：かつてポーランド、リトアニアの一部。東方カトリック教会
- ・ 東側：ほとんどがロシア語、東方正教会
- ・ クリミア：住民の70%がロシア人。1954年にフルシチョフがウクライナに「与えた」。ソ連崩壊後、クリミア議会は何度もウクライナからの独立を宣言。
- ・ ハンチントンは、1996年時点で、ウクライナ分裂と東側のロシアへの吸収の可能性を警告。
- ・ 2004年：大統領選挙の混乱
野党候補のユシェンコ毒殺未遂
「オレンジ革命」
- ・ 2013年11月：ユーロマイダン騒乱
- ・ 2014年2月21日：ヤヌコヴィチ大統領
亡命、2月27日：クリミア・東部侵攻



1. ロシアと いう「存在」

5) ロシアの 戦略ツール

① 諜報機関・ 対外工作機関

◆ロシア連邦保安庁（FSB）

- ・ KGBの後継機関。防諜、犯罪対策、国境警備、SIGINT、金融犯罪等を管轄。

◆ロシア対外情報庁（SVR）

- ・ KGBで対外諜報を担当していた第一総局の後継機関。
- ・ 2020年末のソーラーウインズを通じた米政府機関へのサイバー攻撃等に関与？
- ・ 2020年7月の米共和党全国委員会（RNC）ネットワークへの侵入に関与？

◆連邦軍参謀本部情報総局（GRU）

- ・ スパイ活動、サイバー作戦、偵察衛星、特殊部隊（スペツナズ）を管轄。
- ・ 第二次世界大戦中のリヒャルト・ゾルゲはGRUの管理下にあった。
- ・ 2014 クリミア占領、2015ウクライナの送電網、2017仏大統領選挙、2018平昌オリンピック等へのサイバー攻撃、2016米大統領選挙でのヒラリー・クリントン陣営へのサイバー攻撃、2018イギリスでの元GRU大佐父娘毒殺未遂事件等に関与？
- ・ 2020年東京オリ・パラ組織委員会や関係者へのサイバー攻撃にも？

1. ロシアと いう「存在」

5) ロシアの 戦略ツール

②軍、電磁波 部隊、民間軍 事会社、囚人

◆ロシア軍＝世界で最も「実戦」経験豊富な軍隊

- ・ 2010～2020年代、ウクライナ、シリア、ナゴルノ・カラバフ等で実戦投入。

◆「お家芸」のサイバー・電磁波（EMS）作戦能力

- ・ 世界初の電波戦：日露戦争の旅順港封鎖での日本の駆逐艦に対する電波妨害
- ・ ウクライナ東部戦線：通信妨害による指揮系統麻痺、GPS位置情報の欺瞞によるドローン墜落、電波干渉によるミサイル・迫撃砲の誤爆・誤射、ウクライナ兵士の私物スマートフォンへの偽命令、動揺・離反を誘うメッセージ等々
- ・ 2017憲法記念日に、ロシアのマルウェアがウクライナ全土の30%のPC乗取り。

◆民間軍事会社（PMC）「ワグネル」

- ・ 2013年設立、ロシア軍参謀本部の管理下にある「民間企業」。「プーチンのシェフ」プリゴジンが出資。ウクライナ、シリア、リビア等に投入。

◆受刑者の「活用」

- ・ 大戦末期、ソ連軍は満州侵攻時に囚人を投入、暴虐の限りを尽くした。
- ・ ウクライナ東部占領でも、受刑者を釈放の条件として投入。

（参考図書）『現代ロシアの軍事戦略』小泉悠

1. ロシアと いう「存在」

5) ロシアの 戦略ツール ③武器輸出

- ・ ロシアは武器輸出国として米国に次いで世界第2位。
- ・ 国営武器輸出企業「ロスオボロンエクスポート」
- ・ 米国製は高性能・高価格、ロシア製は頑丈・低価格。
- ・ 輸出先：インド（35%）、中国（12%）、ベトナム（10%）等50か国
特に東南アジアに輸出拡大（潜水艦、フリゲート艦、空母、
戦闘機等）
- ・ 品目：ミグ、スホイ戦闘機、爆撃機、S-400ミサイル等の対空兵器

1. ロシアと いう「存在」

5) ロシアの 戦略ツール

④ 石油、天然 ガス、原子力

◆ ガスプロム

- ・ 全世界の23%の天然ガスを生産する世界最大の天然ガス生産・供給企業。
- ・ ロシア政府が50%以上の株式を保有する半国営独占企業。
- ・ パイプライン敷設やガス供給等により、国家のエネルギー外交の一翼。
- ・ ロシアからバルト海を通過してドイツに至る「ノルド・ストリーム」パイプライン（2011稼働開始）は、事実上ドイツの生命線を握る。ロシアにとってもウクライナを通過せずに欧州にガス輸出が可能となる。
- ・ 米は「ノルド・ストリーム2」関連会社に対して制裁を課していたが、2021年5月に制裁を解除。

◆ ロスアトム

- ・ 世界最大の国営原子力コングロマリット。電力会社の原子力部門、燃料の転換、濃縮、加工再処理、使用済燃料貯蔵、原子力機器の開発、核兵器開発、核融合を含む原子力研究所をすべて併せ持つ。
- ・ ロシアの原子力行政・輸出を担当、各国との原子力協定の交渉権も有する。
- ・ 原子力砕氷船による北極海航路の単一オペレータ、水素エネルギー開発、量子技術研究も行う。
- ・ 世界での原発輸出市場をほぼ独占。特に中国、インド等ではロシアの原発建設ラッシュが続いている。

1. ロシアと いう「存在」

6) ケース・ スタディ： 米露首脳会談

- 6/16、バイデンの就任後初めてスイス・ジュネーブで米露首脳会談
- 表向きは関係改善への小さな一歩。実際は、ロシアの圧勝？
- 昨年末からロシアのサイバー攻撃激化（ソーラーウィンズ、MSエクスチェンジサーバー等）
- 4/15、ロシア外交官10名追放を含む米大統領令（ロシアも報復）
- 5/7、ランサムウェアにより**米コロニアル・パイプラインが業務停止**（12日に供給再開、15日までに全体が復旧）
- 5/13、DarkSideが活動停止
- 5/19、米国務省が**ノルド・ストリーム2 関連会社への制裁を解除**
- 6/8、米司法省、FBIが身代金ビットコインの一部を差し押さえたと発表
- 7/6、米共和党全国委員会（RNC）にロシア系APTが侵入。ロシア系ハッカー集団Revillによる最大級のランサムウェア攻撃を陽動に利用？
- 7/9、米露電話首脳会談、
- 7/13、REvillハッカーサイト閉鎖
- 7/15、米独首脳会談で**米はノルド・ストリーム2に改めて懸念表明。**

2. プーチンって誰？

1) 結局よくわからない

1952.10	プーチン誕生
1975	レニングラード大学卒業、KGB就職
1985	東独ドレスデンに派遣
1990	帰国、レニングラード大学学長補佐
1991.6	サンクトペテルブルク副市長
1991.8	KGB辞職
1996	サプチャク市長落選、モスクワに異動
1997	ロシア大統領府副長官
1998.7	FSB長官
1999.8	第一副首相、首相
2000～2008	大統領（2期）
2008～2012	首相
2012～現在	大統領（2期目）
2000.3	改憲（2036まで大統領？）

何してたのか不明

出世の経緯など全く不明

2. プーチンって誰？

2) 6つのペルソナ

6つのペルソナ（①国家主義者、②歴史家、③サバイバリスト、④アウトサイダー、⑤自由経済学者、⑥ケース・オフィサー、⑦システム）

×

パフォーマンス・言動・メディア

↓

対象の認知情報の操作

「こうあって欲しいプーチン」の投影
(例：「親日家」「本当は中国が嫌い」)

(参考図書) 『プーチンの世界』 フィオナ・ヒル

『プーチン幻想』 グレンコ・アンドリー

2. プーチンって誰？

3) 転機①：ユーゴ空爆、EU/NATO拡大

◆ユーゴ空爆1999

ロシアは、ロシアへの事前相談なしのNATOによるセルビア攻撃に強く反発。
プーチンは安全保障会議書記として露軍と米・NATO軍の間の調整を担当。

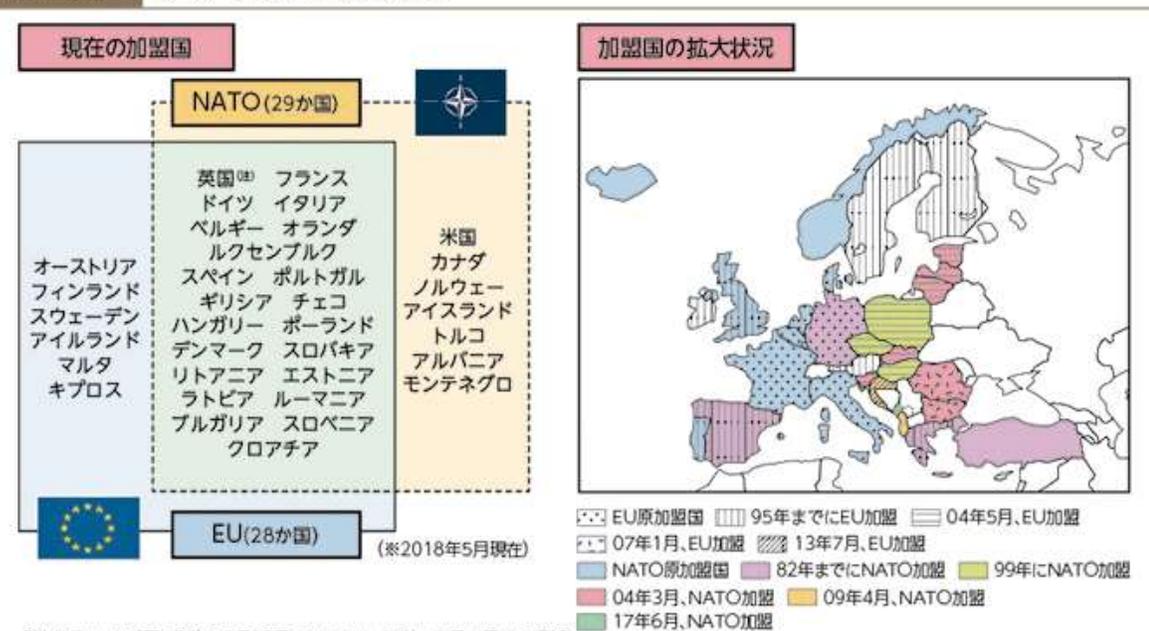
◆NATO：エストニア、スロバキア、スロベニア、ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア（2004）、アルバニア、クロアチア（以上2009）、モンテネグロ（2017）北マケドニア（2020）

◆EU：キプロス、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マルタ、ポーランド、スロバキア、スロベニア（2004）、ブルガリア、ルーマニア（2007）、クロアチア（2013）、英離脱（2020）

⇒2007頃から、プーチンは、米国一極支配やNATO拡大への懸念を強く表明。

⇒特に2008NATOブカレスト・サミットでグルジア、ウクライナの加盟が議論されたことに強く反発。

図表 I -2-8-1 NATO・EU加盟国の拡大状況



2. プーチンって誰？

3) 転機②： カラー革命とアラブの春

◆グルジア：バラ革命（2003）親米派サーカシビリ大統領の誕生

◆ウクライナ：オレンジ革命（2004）親米派ユーシェンコ大統領の誕生

◆チュニジア：ジャスミン革命（2010）ベン・アリ政権崩壊

◆エジプト：エジプト革命（2011）ムバラク政権崩壊

◆リビア：リビア内戦（2011）カダフィ政権崩壊

◆イエメン：イエメン内戦開始（2011）

◆シリア：シリア内戦開始（2011）

⇒大統領就任当初、プーチンは、国内復興・経済政策に専念。ソ連の崩壊やその後の混乱についても陰謀論を否定していた。

⇒2007年頃から、ロシアの「主権民主主義」を提唱。

⇒2012年以降、西側の「普遍的価値」の否定、民主主義、個人の自由、私有財産といった概念の拒否をより明確に表明するようになる。また、「外国エージェントの役割を果たすNGO」の国内での活動規制を強化。

2. プーチンって誰？

4) プーチンの「行動」＝ロシアの国家戦略

- ・ 「ロシアのものはロシアに」：
「ソ連の復活」というよりも、スラブ主義と東方正教会文明の「失地回復」
- ・ 「敵の敵は味方」＝反米（とその同盟国）
中国（中華文明）、イラン（イスラム文明）との反米同盟
欧州文明の分断（ドイツの取り込み）
中南米の不安定化（ベネズエラ、キューバ支援）
- ・ 「味方の敵も味方」＝同盟しつつ中華・イスラムの圧力低減（インド太平洋諸国への武器輸出、シリアの不安定化）
- ・ 主戦場は「非対称戦争」：
リアル/サイバー/ハイブリッドの「実戦」最強国

3. おまけ ロシアと アイン・ランド

- ・ ロシア/ソ連と似ているところ：
極端、知性主義、宗教否定、唯物論
- ・ 似てないところ：
個人主義、道徳・倫理・ルールの重視
- ・ ロシアはランドの「道徳的社会」になる可能性があるか？